



外報摘要
第壹回

1853



414
A 772
1



外報摘要第壹回目次

北美合衆國民放逐事件

台湾ニ於ケル日本政府ノ虐政

西班牙ノ形勢

其一 キュバ島ニ對スル西班牙ノ決心

其二 フビリッツピン群島ニ於ケル西班牙

以上

明治二十九年十月一日脱稿

大正十一年四月
隈侯爵郵寄贈

北米合衆國民放逐事件

西曆千八百九十六年八月七日發兌「ニユーヨークヘラルド」ハ合衆國民放逐事件ト題シテ曰ク我北米合衆國民ノ外國ヨリ放逐セラレタル場合ニ我政府ハ如何ニ處スルカ、此問題タル外交上最モ重要ナルノミナラス之ヲ討究スルハ刺下頗ル必要ナルモアリ、蓋シキエバノ叛乱以來我同胞ノ既ニ諷地ヨリ放逐セラレタルモノアルノミナラス、尚恐ラクハ將來ニ於テ此禍ニ罹ルモノアルヘケレハナリ、予輩ハ過去ノ事例

ラ左ニ掲ケ以テ此件ニ對スル我政府ノ意向ヲ
討究セン

ホーランドー事件

我合衆國々務省ノ曩ニ交渉セシ事件ハ即ガア
テマラヨリ放逐セラレタルホーランドーノ事
件ナリトス、元來此ホーランドーナルモノハ合
衆國公民ニシテガアテマラ國ニ居住シ新聞紙
發行ニ從事シツ、アリシガ、該國官吏ノ樊風ヲ
論セシトテ誹謗及偽造罪ノ名稱ノ下ニ捕縛禁
錮セラレ、獄裡ニ呻吟スルコト無慮三閱月其間

啻ニ一回ノ審問モナク、突然行政命令ヲ以テ放
逐セラレタルナリ、而カモ其放逐セラレ、ニ當
テヤ其身ハ護衛セラレテ海岸ニ到リ將ニ碇
セントスル船中ニ投セラレ、莫ニ其家族ニ會見
シ或ハ自己ノ財產事業等ヲ調理スルノ猶豫ナ
クシテ放逐セラレタルナリ

合衆國政府ノ要求

此事實ニ就キ、我華盛頓政府ハホーランドーノ
為メニ、ガアテマラ政府ニ對シ相當ナル償金ヲ
要求セリ、其理由ニ曰クガアテマラテ政府カ彼ニ

對シテ行ヒタル處置ハ頗ル苛酷且急劇ナルノ
ミナラス万国公法ノ原則ヲ無視シタルモノナ
リト

右ニ附キガアテマラ政府ノ答辯

是ニ對シガアテマラ政府ハ答ヘテ曰ク斯カル
時ニ斯カル方法ニ於テ外人ヲ領地外ニ放逐ス
ルハ万国公法ノ承認スル邦國ノ權利ニシテ既
ニ邦國カ此權利ヲ有スル以上ハ其好ム所ニ從
ヒ之ヲ行フハ敢テ不當ニアラス又此權利實行
ニ就キ外國ハ容喙スヘキモノニアラスト

ニ

然ルニ西曆千八百九十六年一月三十日附公書
ニ於テ國務卿ヨル子一ハ曰ク我合衆國ハガア
テマラ政府ノ謂ヘル如キ理由ヲ万国公法上承
認シ能ハサルノミナラス又万国公法上外國カ
合衆國公民ヲ放逐スルノ權利ハ斯ノ如ク絶對
的ナリト承認シ能ハサルナリ云々蓋シ我國務
卿ノ意ハ各邦國ハ公法上此放逐權ナシト云フ
ニアラス寧口談權利ハ一般ニ承認セラレ且實
行セラル、所ナリト雖モ唯談權利ハ絶對無限
ノ權利ニアラスシテ必スヤ人類ノ慈愛及常理

ヲ之ニ對照シ以テ實行ス可キ有限的ノ權利ナ
リ若シ夫レ反之談權利ニシテ絶對無限ナラン
カガアテマラ政府ノ為セシ如ク無遠慮ニ之ヲ
乱用スルモ將何カアラニ然レトモ其實然ラサ
ルモノナルヲ如何セント云フニアリ而シテ斯
カル問題ニ對シ我先國務卿グレシヤムノ言ヘ
ル真ノ原則ハ即各邦國ハ公法上談權利ヲ有ス
ルモ之ヲ友邦國民ニ實行スルハ特別且充分ナ
ル理由アルニアラスニハ為シ能ハサル所特ニ
又縱令是等ノ理由アリテ之ヲ實行スルニ際リ

テモ其邦國ノ安危利害ト被告ノ利害等ヲ審ニ
比較シ可成被告ノ身分財產等ニ損害ヲ波及セ
サル如ク實行ス可シトノコトニシテ此原則ハ
佛蘭西獨逸及其他ノ歐洲諸邦ニ於テ現ニ實行
スルトコロナルノミナラス特ニ是等ノ邦國ニ
アリテハ被告ニ陳辯ノ權利ヲ附與シ且愈放逐
ヲ命セシ後ト雖モ猶相當時日ヲ與ヘ以テ其事
業ヲ調理セシムルモノ、如シ
由是觀之各邦國カ公法上有スル外人放逐權ナ
ルモノハ有限的權利ニシテ之ヲ實行スルニ際

リテハ單ニ正義ニ倚ラサルヘカラサルノミナ
ラス又充分ニ各國ノ判例及慣行ヲ遵守シテ施
スヘキモノタルコトヲ認ムルト同時ニ予輩ハ
我合衆國政府カ此問題ニ對シテ如何ナル方針
ヲ採ルカヲ窺知スルヲ得ン

台湾ニ於ケル日本政府ノ虐政

予輩ハ我在台湾通信員ニヨリ最モ重要ニシテ
且感慨ス可キ事實ヲ聞知セリ、而シテ是等ノ事
實ハ渠カ炯眼ヲ以テ觀察シタル幾多ノ原因及
事情ヨリ聚集セラレタルモノナルカ故ニ、固ヨ
リ正確ニシテ予輩ハ之ヲ信據スルト共ニ、之ニ
由テ以テ曩ニ屢手ニセシ日本政府ノ台湾ニ於
ケル虐政ニ關スル通信ノ悉ク信據ス可キモノ
タルコトヲ確認スルヲ得タリ
蓋シ通信ニヨレハ今ヤ諺島ニ於ケル日本文武

官ノ間ニ軋轢アルハ明瞭ナル事實ナルト、同時ニ彼樟腦産出地方ニ住スル鰥寡孤獨誠ニ憐ムヘキ支那人ニ對シテ日本政府カ残酷ノ舉措ヲ為シツ、アルハ又爭フ可カラサルノ事實ニシテ此残酷行為ハ予輩カ主トシテ大隈伯ノ語調及伊藤侯ノ言論ヨリ探知セシ日本政府ノ決心即日本政府ハ其國民ノ利益ヲ謀ラン為メ談島ニ於ケル外人ノ商業ヲシテ全ク衰頽セシメントノ確固タル決心ヲ實行シツ、アルニ外ナラズ、而シテ日本政府カ此決心ヲ實行スルノ方針

ハ二途ニ出ツ即泰西人ニ對シテハ或ハ名ヲ國法ニ藉リ或ハ万国公法ノ條規ヲ引用シ以テ之ヲ實行シ支那人ニ對シテハ更ニ此假面ヲ用ヒスシテ實行スルモノ、如シ、等シク商業沮碍ニシテ其方針斯ク二途ニ岐ル、所以ノモノハ他ナシ、即前者ニアツテハ之カ為ニ欧州列國トノ衝突ヲ恐ル、カ故ニシテ後者ニアツテハ其然ラサルモノアルニ由ル、蓋シ日本政府謂ヘラク如何ニ支那人ヲ虐待スルモ支那政府ハ敢テ抵抗セサルノミナラス恐ラクハ我ノ意思ヲモ解

セサルヘシト、故ニ該政府ノ支那人ヲ憎惡スル
コト刺下益甚シク一方ニ渠等ヲ盡滅セントス
ルト共ニ他方ニ恐怖ヲ買ハシメ彼等ヲシテ自
ラ逃走スルニ至ラシメントノ決心ハ實ニ掩フ
可カラサルノ事トナレリ、然レドモ之レ果シテ
文明ノ徳ヲ備ヘ國際ノ禮讓ヲ遵守スト稱スル
日本政府ノ得テ為シ能フ所ナルカ、予輩疑ハサ
ラントスルモ能ハサル所ナルモ而カモ翻テ過
去ノ一事實ヲ回想セハ又之ヲ信セサルヲ得サ
ルヲ如何セン、過去ノ一事實トハ何ソ曰ク朝鮮

王后殺害事件是ナリ
抑朝鮮王后殺害事件ハ當時日本政府派遣ノ使
節其人ノ企圖シ且實行シタルトコロナルハ公
認ノ事實ニシテ其罪蹟顯然タリシモノアリシ
ニモ関ハラス日本政府ハ渠ヲ正當ニシテ從順
ナル使節トシ遂ニ無罪トナセリ、
顧フニ日本タルモノ外國君主ヲモ殺害セン為
メニ尚且刺客ヲ贈リ得ヘクンハ其領地ヨリ嫌
悪スル國民ヲ驅逐セントスル如キハ素ヨリ容
易ノ業ナラン、於茲乎予輩ハ唯一事ヲ記臆セサ

ルヘカラス即日本ハ西洋文明ノ覆面者ニシテ
其精神ハ依然東洋的且奸猾ナル者ナルヲ
予輩ハ此一事ヲ記臆スルト共ニ日本自信ニ憑
着セラレ彼ヲ過重視シ是ト改正條約ヲモ為セ
シ歐州列國ニ向テ日本施政ニ對シテ發セシ種
々ノ酷烈ナル攻撃ヲ穿鑿スルノ勞ヲ執ラシコ
トヲ望マサルヲ得ス蓋シ穿鑿ノ結果其攻撃ノ
事實ニシテ全ク真ナラザリセハ其穿鑿ヤ却テ
日本ノ利益ヲ生スルモノアレハナリ
予輩ハ同時ニ亦支那政府ニ向テ一方ニ台湾ニ

於ケル其國民ノ保護方法ヲ講シ他方ニ既ニ殘
虐ヲ蒙リシ其國民ノ為メニ日本政府ニ對シテ
相當ノ賠償ヲ要求スルコトヲ諫告セサルヲ得
ス何ントナレハ朝鮮ニ於ケル日本人ノ一頭臚
ニシテ數千金ノ價值アリトセハ台湾ニ於ケル
支那人ノ頭臚亦之ニ等シカラサルノ理アラサ
レハナリ惟フニ支那政府ニシテ這般ノ要求ヲ
ナサンカ誰レカ之ヲ援後セサルモノアラシヤ
ト

西曆千八百九十六年八月三十一日發兌「シヤン

ハイマアキユリ」ハ其社説ニ於テ絶叫セリ

西班牙ノ形勢

其一、キエバ島ニ對スル西班牙ノ決心
西曆千八百九十六年八月十四日發兌「ロンドン
タイムズ」週報ハキエバ戰亂ニ對スル西班牙ノ
意向ヲ報シテ曰ク

晩近マドリッドニ開設セラレタル國會ニ於テ
談國宰相セノウル、カノバスハ謂ヘテ久我西班牙
政府、唯希望セシ所ハキエバ戰亂ニ就キ其
要求ヲ満足セシメントスルニアリキ、然レトモ
今ハ早ク既ニ暴民ノ一揆所在到ル處ニ傳播シ、

殆ント全島ヲ舉ケテ紛擾乱雑ノ渦中ニ陥レ我
殖民ノ生命ヲ犠牲ニシ其財産ヲ雲散セシメ最
早キユバ殖民ヲシテ軍資ヲ負擔スル能ハサル
ニ到ラシメタリト更ニ又彼ハ一議負ノ問ニ應
シテ曰久我西班牙民人ニシテ戦乱ニ倦ミ袖手
傍觀彼等ヲシテ暴横ヲ逞フセシムルニアラス
ニハ彼等豈能ク我西班牙軍ヲ碎破スルヲ得ニ
而シテ予ハ信ス我民人ノ意断シテ茲ニアラサ
ルヲ若シ夫レ民人ニシテ予ノ所信ト背馳スル
アラシカ予ハ永久政治界ヨリ退クヘキノミ左
九

レハ諸氏ニシテ干戈ヲ繼續スルニ要スル軍資
ニ協賛スルアラハ他ノ豫算ノ如キ諸氏ニ讓歩
スル予ノ敢テ厭ハサル所ナリ蓋シ我西班牙ハ
キユバヲ版圖トシ之ヲ管轄内ニ置カン為メ止
ムナクンハ總テノ財資ヲ悉スノ決心アレハナ
リト

是ニ對シ改進黨ノ首領セノウル、サガスタ曰ク
宰相ノ言頗ル好シ然レトモ之レ畢竟我ト合衆
國トノ紛争ヲ釀スモノニシテ之カ爲メ我國ハ
船舶ヲ購入シ且國債ヲ起サ、ルベカラズ去々

其二、フヒリツピン群島ニ於ケル西班牙
西曆千八百九十六年八月二十九日發克シヤン
ハイ、マアキユリールハフヒリツピンニ於ケル
西班牙ト題シ、其社説ニ於テ頗ル剴切ナル論議
ヲ為セリ曰ク
予輩顧フニキユバ島ニ於ケル臣民ノ艱難ヲ救
濟セン為メニハ須ラク其事情ヲ友情國ニ訴ヘ
之カ助言ヲ仰キ以テ其處置ヲ為スヘキハ、最モ
正義ト謹慎トヲ含蓄スル適當ノ方法ニシテ、結
果又良好ナリシナランニ、西班牙ハ事茲ニ出テ
十

スシテ獨斷キユバニ於ケル其臣民ノ無條件服
從ヲ強求セリ、之レ果シテ西班牙、為メニ得タ
ル策ナルカ
曾テ北米合衆國殖民ノ大英國ニ對シテ羈絆ヲ
脱セントスルヤ、大英國ハ其周圍ニ真實ナル幾
多ノ助言國アルニモ關ハラス、頑トシテ北米殖
民ノ要求ヲ拒絕セシカバ、多年忠實ナリシ殖民
ヲシテ一朝最モ懼ルヘキ勁敵ト變セシムルニ
至レリ、而シテ當時北米合衆國殖民ノ運命タル
ヤ、彼西班牙及佛蘭西等ノ彼等ニ同情ヲ表セシ

迄ハ實際未定ナリシト雖モ其後佛蘭西ハ殖民ノ理由ヲ是ナリトシ公然之ニカヲ藉スニ至テ始メテ判明セリ、西班牙ノキエバニ於ケル關係ハ頗ル是ニ類シ而シテ西班牙亦英ニ倣ハントスルモノ、如シ是レ西班牙ノ為メニ得タルモノナルカ、蓋シ英ノ勢力ヲ以テスルモ尚且能ハサルニ況ンヤ西ノ勢力ヲ以テスルニ特ニ其倣ハントスル理由彼ニ較シテ一層薄弱ナルヲ以テスルニ於テヤ、更ニ環視列國就中北米合衆國ノキエバ事件ニ對スル方針ヲ見ルニ、先ニ佛

國カ自己ニ對シテ為セシ如ク急劇且切迫セシモノナシト雖モ、順々トシテ正道ヲ履ミ以テキエバ人ニ同情ヲ表シ、政府ハ今ヤ熱心ニ直接干涉ヲ主張スル人民ヲ制御スルニ寧日ナキハ寧クフヘカラサルノ事實ナリト云ハサルヘカラス、左レハ將ニ苦境ニ沈淪シツ、アル西班牙ノ為ニ圖ルニ彼ニシテ四隣ノ趨勢ヲ察シ友情國ノ助言ニ聞カハ、瞬時ニシテ其事ヲ理スル適當ナル方法ヲ發見シ從テ目下ノ如キ困難ナル地位ニ陥ラサリシナラニ然ルニ談國ノ意向ハ全ク

及對ニ出テ一方ニハ國カヲ擧ケテ叛徒ヲ鎮滅
セントシ他方ニハ其國カヲ擧クルカ為ニ痛ク
國民ノ感情ヲ害シ縱令干戈ハ勝利ヲ以テ畢ル
モ國民ノ不満足及憎惡ノ念ハ自今少ナクモ二
三十年間繼續スヘキモノアルニモ閉セズ其目
的ヲ達セントセリ夫レ斯ノ如ク内外ニ種々ノ
困難ヲ控フル談國ニシテ而モ獨立以テ能ク擾
乱ヲ鎮滅シ得ヘキヤ否最モ疑ハシキ事ニ從ハ
サルヘカラサルニ至リテハ予輩談國ノ為ニ鴻
嘆セサルヲ得ス

特ニ眼ヲ轉シテ談國ノ領地ヲ打算セハ其領地
ハ獨リキエバノミニアラズ尚極東ニマニテフ
ヒリツツピン等ノアルアリ而シテ是等極東ノ
領地ハ從來談國カ抑壓ヲ以テ統御セシニモ係
ラス今日マテ彼等ハ其本國ニ對シテ頗ル忠實
ナリキ然ルニ予輩カ今夕キニセシ電報ハ異報
ヲ齎シテ曰ク
フヒリツツピン島ニ於ケル西國ノ臣民ハ本
國政府ノ壓制ニ堪ヘスシテ叛旗ヲ翻セリト
予輩ハ此一電而モ明ヲ欠クノ一電文ニヨリテ

彼是意見ヲ陳スルハ甚ク大早計ナルカ故ニ暫ク緘黙スルモ予輩ハ之ニ由テ優ニ一事ヲ認ムルヲ得即西國ハ東方ニ於テ抑壓領地ヲ有スル事ヲ

顧フニ西班牙政府ハ此叛旗ニ對シ如何ニ處セントスルキエバ事件ノ轍ヲ履マス正義公道ニヨリテ處セントスルカ將亦キエバノ叛亂ニ加ヘテ更ニ之レト格闘セントスルカ若シ夫レ故ラニ自國ノ主權ヲ固執セントスルノ餘其處置當ヲ失スル如キアラニカ環視列國ノアルアリ

西班牙タルモノ焉シノ注意一番セサルヘケンヤ

1

2

十
目